

「自分の人生優先に」 介護離職防止対策シンポ

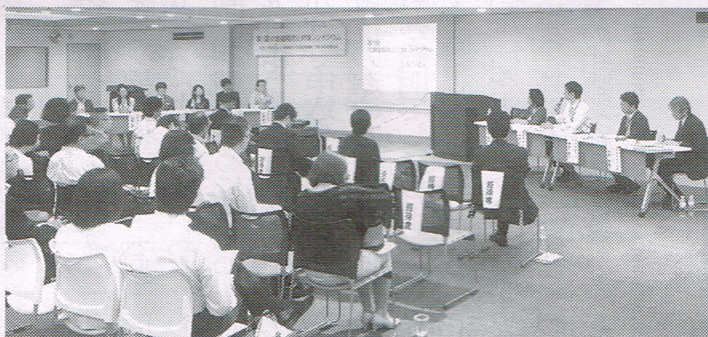
高齢者施設向け給食事業などを手掛けるナリニマエンタープライズ(大阪府茨木市)は、災害時などに簡単に調理できるレトルトタイプの非常食の販売を全国に広げていく。

PB商品の「ひまわり非常食」は、一般的な防災の知識として推奨されている3日分の非常食を標準献立化。献立を組み立てなくても栄養バランスの整った食事を提供できる。

仕事と介護の両立について考える「介護離職防止対策シンポ シウム」の第一回目が今月2日、都内で開催された。一般社団法人介護離職防止対策促進機構(東京都渋谷区/KABS)が主催。

年間10万人を超えるという介護離職者。同団体は介護しながら働くことが当たり前になる社会を目指すために、今年1月に設立された。13年間母の介護をしている和氣美枝代表理事は「介護者になると選択肢が見えなくなってしまう、離職をしてしまふ人が多い。介護者になった時、自分はどうしたいのかを考え、自分の人生を優先的に考えることが大事」「自分が介護しているということを、会社に報告してほしい。また介護者仲間を作れば、実践的で有益な情報交換ができる」と介護者目線からアドバイスした。

当日は介護離職防止に取り組む企業が紹介されたほか、弁護士、社会保険労務士、ケアマネジャーを交えたディスカッションも行われた。外岡潤弁護士(介護・福祉系法律事務所おかげさま)は「介護していることが会社には知られると不当な扱いをされる『ケアハラスメント』について、今後はもっと社会全体で注目していかなくてはいけない課題である」と訴えた。



▲介護離職は年間10万人以上

かつて災害の際は、高齢者施設入居者の咀嚼状態を考慮し、介護スタッフが普通食をすり鉢でつぶしたり細かく刻んだりするなど、緊急時の食事の準備に時間と手間がかかっているケースがあった。そこで「ひまわり

非常食」では、一般食・ソフト食・ミキサー食などを用意。身体状態に関わらずスムーズな食事提供が可能となる。また、レトルトタイプのため調理にかける時間を大幅に短縮できる。料金は、普通食おかずセット



(10食入り)が、朝食800円、昼食3200円、夕食3200円(すべて税別)。ソフト食おかずセット、及びミキサー食おかずセット(ともに5食入り)が朝食500円、昼食1700円、夕食1700円(すべて税別)。保存期間はおよそ18ヵ月。

第25回 がんとの戦いはいつして始まった

最近思うように身体が動かなくなってきた。79歳なのだからいたしかたないとも思う。がんを患って30数年。その後、糖尿病を併発し、2年前、心筋梗塞で緊急入院をしてステントを2本入れた。自分が死ぬのは多分心筋梗塞ではなかろうか。そんな思いがするこの頃である。がんになって長い、周りには自分の

闘病の話をした。きてきた軌跡はどい、自分の闘病記を今後の生き方と今後をどうするか。

1979年3月、とき、突然便器が直の経験だったが、はウソのように消えたくない。普通はそなたまたま義兄が同じであった。それが幸いく事を薦められた。がった。

それから10年、毎UR)を繰り返したに会社や仕事仲間1週間の入院。毎月1回の定期検査の法(当時の最先端治療)を繰り返した。仕事の都合で太

がんから学ぶ

—がんサロン主宰者が語る—



1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの企画・総務部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(ガリアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

血尿で通院、早期発見に